



## 2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月10日

上場会社名 rakumo株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4060 URL <https://corporate.rakumo.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO兼COO (氏名) 御手洗 大祐  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 西村 雄也 TEL 050 (1746) 9891  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後EBITA ※		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	948	18.2	251	52.9	234	44.1	227	46.8	150	43.3
2022年12月期第3四半期	802	13.4	164	4.3	162	3.0	155	1.5	104	△26.2

※調整後EBITA＝営業利益＋のれん償却費（PPAによる取得原価配分後の各種償却費を含む）

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 161百万円 (29.5%) 2022年12月期第3四半期 124百万円 (△16.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	26.10	24.25
2022年12月期第3四半期	18.40	17.86

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	2,609	1,324	50.5
2022年12月期	1,776	1,152	64.9

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 1,317百万円 2022年12月期 1,152百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,246	13.7	291	25.6	285	26.4	197	6.9	34.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	5,766,200株	2022年12月期	5,748,900株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	111株	2022年12月期	67株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	5,757,108株	2022年12月期3Q	5,698,720株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・2023年12月期の連結業績予想に記載の「1株当たり当期純利益」の計算の基礎となる期中平均株式数につきましては、2023年10月1日から2023年10月31日までの間の新株予約権の行使（3,500株）による株式増加数を反映させて算出しております。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、社会経済活動の正常化が進む中、設備投資の持ち直しや雇用・所得環境に改善の動きが見られる等、緩やかに回復しました。先行きについては、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念等、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇や金融資本市場での変動等の影響に十分注意する必要があり、依然として不透明な状況にあります。

当社グループが事業展開するソフトウェア業界におきましては、企業の生産性向上や業務効率化、テレワーク等に関連したシステムへの投資需要拡大が引き続き見込まれます。政府が推進する「働き方改革」への取り組みに加え、在宅勤務やモバイルワーク等テレワークの実施、オフィス勤務とリモートワークを併用したハイブリッド勤務の増加等、「新しい働き方」が定着しつつあります。

かかる状況の下、当社は2023年5月にアドバンテッジアドバイザーズ株式会社との間において、事業提携契約を締結するとともに、同親会社及び同社を含むアドバンテッジパートナーズグループの役員が間接的に出資するファンドに対して、第8回新株予約権及び第1回無担保転換社債型新株予約権付社債を発行いたしました。

本事業提携及びファイナンスにより、当社の自己資本充実と財務基盤の健全化・強化を図りながら、同社から得られる経営戦略、事業戦略、人事戦略及びM&A戦略等に関するアドバイスにより経営改革を推し進めてまいります。

また、2023年7月3日付で、企業の決算説明会等におけるIR動画や、会社紹介・サービス紹介動画を中心とした映像制作・配信事業を提供している株式会社アイヴィジョンの全株式を取得し、連結子会社といたしました。本連結子会社化により、当社グループ及び当社グループのパートナー網を活用し、同社サービスの利用社数拡大に取り組んでまいります。また、同社が有する動画領域の特許技術や各種ノウハウを共有・吸収することで、当社グループのサービス開発・運営にも活かしてまいり所存です。

なお、高まる情報セキュリティの重要性から、より高いレベルで情報セキュリティ（機密性、完全性及び可用性）を維持・改善する基盤とし、お客様に安心して当社サービスをご利用いただくため、当社は2023年8月に、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際規格である「JIS Q 27001:2014（ISO/IEC 27001:2013）」の認証を取得いたしました。

このような状況の中、当社グループは、『仕事をラクに。オモシロく。』というビジョンのもと、『次のいつもの働き方へ。』をミッションに掲げ、オフィスの生産性向上に貢献すべく、企業向けグループウェア製品「rakumo」、「gamba!」及び「SmartVision IR」の機能強化及び更なる拡販に注力しました。

販売面においては、各種展示会への出展や販売パートナーとのセミナー実施等、売上増加に向けた関係強化に取り組まれました。また、インサイドセールス（電話やメール等を活用したリード獲得）の内製化や、各種マーケティング施策にも積極的に取り組むことで、新たな案件創出に尽力しました。

加えて、クライアントニーズを勘案した既存製品の機能追加・改善や、製品の活用を促すための能動的なオンボーディング施策を実施する等、お客様満足度の向上や解約率の低減にも努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高948,317千円（前年同期比18.2%増）、営業利益234,332千円（前年同期比44.1%増）、経常利益227,967千円（前年同期比46.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益150,240千円（前年同期比43.3%増）となりました。

当社グループはITビジネスソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていませんが、サービス別の経営成績は、以下のとおりであります。

#### (SaaSサービス)

rakumo関連サービスにおいては、2023年9月末のクライアント数は2,425社（2022年12月末比91社増）、ユニークユーザー数は541千人（同39千人増）となりました。

売上増加に向け、自社セミナーの開催、Google社や販売パートナー主催セミナーへの参加、展示会・カンファレンスイベント等への出展を行いました。また、パートナーの特徴に応じた顧客アプローチを行うことで、販売パートナーとの関係強化に取り組まれました。インサイドセールスの内製化による柔軟・迅速な顧客対応の実施や、各種マーケティング施策にも積極的に取り組むことで、新たな案件創出に尽力しております。

加えて、クライアントニーズを勘案した既存製品の機能追加・改善や、製品間連携を訴求したパック製品の販売強化、顧客属性に応じた能動的なサポート・オンボーディング（活用促進）施策を実施することで、新規クライアントの獲得や、ユニークユーザー数及びユーザー1人当たり単価の増加に取り組まれました。

また、社内SNS型日報アプリ「gamba!」及びIR動画配信システム「SmartVision IR」においても同様に、拡販に努

めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は851,862千円（前年同期比21.9%増）となりました。

（ソリューションサービス）

当サービスにおいては、既存顧客への業務支援案件は安定的に推移したことに加え、SaaSサービスに関する導入支援案件等も継続的に受注できたことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は39,140千円（前年同期比10.2%増）となりました。

（ITオフショア開発サービス）

当サービスにおいては、既存顧客からのラボ型開発案件は比較的堅調に推移した一方、単発の受託開発については、SaaSサービスに注力したこともあり、前年同期比で減少いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は57,315千円（前年同期比15.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は2,609,409千円となり、前連結会計年度末に比べ832,805千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が422,107千円、のれんが346,953千円増加したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は1,285,073千円となり、前連結会計年度末に比べ660,959千円増加いたしました。これは主に、転換社債型新株予約付社債が500,000千円、契約負債が170,440千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,324,335千円となり、前連結会計年度末に比べ171,845千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益150,240千円を計上したことにより、利益剰余金が増加したことによるものであります。なお、純資産は堅調に増加したものの、転換社債型新株予約付社債の調達及び株式会社アイヴィジョンを連結子会社としたことにより、自己資本比率は50.5%（前連結会計年度末は64.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2023年2月10日の「2022年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,435,554	1,857,662
売掛金	47,374	49,923
仕掛品	380	778
貯蔵品	155	156
その他	44,602	70,187
流動資産合計	1,528,067	1,978,707
固定資産		
有形固定資産	20,084	21,966
無形固定資産		
のれん	84,794	431,747
ソフトウェア	52,652	69,136
ソフトウェア仮勘定	13,905	8,564
無形固定資産合計	151,351	509,449
投資その他の資産	77,100	86,148
固定資産合計	248,536	617,564
繰延資産	-	13,137
資産合計	1,776,603	2,609,409
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	33,885	41,880
1年内返済予定の長期借入金	40,000	-
未払法人税等	23,920	42,329
契約負債	433,954	604,394
賞与引当金	5,916	6,732
資産除去債務	1,847	-
その他	64,391	68,124
流動負債合計	603,914	763,461
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	-	500,000
長期借入金	10,000	10,000
資産除去債務	8,740	11,230
その他	1,459	382
固定負債合計	20,199	521,612
負債合計	624,114	1,285,073
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	390,235	391,804
資本剰余金	351,085	352,654
利益剰余金	394,808	545,049
自己株式	△112	△169
株主資本合計	1,136,016	1,289,339
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	54
為替換算調整勘定	16,473	28,022
その他の包括利益累計額合計	16,473	28,077
新株予約権	-	6,919
純資産合計	1,152,489	1,324,335
負債純資産合計	1,776,603	2,609,409

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	802,336	948,317
売上原価	293,598	335,565
売上総利益	508,738	612,751
販売費及び一般管理費	346,080	378,419
営業利益	162,657	234,332
営業外収益		
受取利息	31	35
その他	1	46
営業外収益合計	32	82
営業外費用		
支払利息	1,443	133
投資事業組合運用損	715	1,553
為替差損	5,290	3,140
その他	0	1,620
営業外費用合計	7,450	6,447
経常利益	155,239	227,967
特別損失		
和解金	3,670	—
特別損失合計	3,670	—
税金等調整前四半期純利益	151,569	227,967
法人税、住民税及び事業税	23,285	55,889
法人税等調整額	23,441	21,837
法人税等合計	46,727	77,727
四半期純利益	104,842	150,240
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	104,842	150,240

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	104,842	150,240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	54
為替換算調整勘定	20,096	11,549
その他の包括利益合計	20,096	11,603
四半期包括利益	124,939	161,844
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	124,939	161,844
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

当社グループはITビジネスソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

当社グループはITビジネスソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。